

ピアホームだより

2018. 3. 10

白石顧問最終講義に出席

長年、薫陶を受けて来た白石先生が、この春を持って、1年早く退職されることになりました。退職に当たり、最終講義は学外にも開かれた形で行われ、私もお誘い頂ける光栄を得ることが出来ました。

白石先生の活動範囲は広く、たくさんの団体の方が参加され、私共家族会仲間も多く参加しておりました。

最終講義の中、直近の1か月、2か月の活動スケジュールを紹介されていましたが、それを見ると、長年付き合ってきた私も知らないような団体へも出向いて、4～5回/月の講演などをこなしていらっしゃるのが分かりました。

たまたま、載ってはいませんでしたでしたが、私共の事例検討会を間近に控えていましたし、顧問として利用者の面接にはお時間をとって頂いて

います。それらは更なる水面下の活動？

白石先生ご自身が明らかにされているように、若い頃は断れない性格と捉えていましたが、今は断れない人となった一と肯定的に捉えられています。

さて、肝心のお話し。先生の到達した支援の技術を取り上げてみます。

支援の基本

今の状態を肯定することが出発点

→病気になる前の自分に拘っている人は前に進めません。

関係なくして支援なし

本人のWISHがNEEDに先行

→専門家はNeedを探ろうとしますが、本人の中にそれに先立つ希望があります。病者の希望はしばしば非現実に見えるために無視しがちですが、これを汲み取り、現実的な支援に導くのが支援。

Socio→Psyco→Bioの準で支援する

→まずは環境調整が優先します。薬で何でも解決はできません。

役に立つのはゆるい人のつながり

→我々の社会がそうなのです。そして緩やかで安心な空間がいいのです。

サバイバルがゴール

→問題を抱えながら、諦めず何度でもやる。

技術1

支援は後だしじゃんけんが出発点

→答えは本人の中にある。それを上手に聞き出す。

技術2

支援者と利用者との関係で人間らしいということは、支援者の受け取り方に依存する。

技術3

説明と合意のプロセス

傾聴→説明→確認→推奨→合意形成

相手の話をしっかりと受け止めて聞くことから始まる。また変なことを言ってるはダメ。

技術4

専門家はより良い支援をいつも意識する必要がある。その実現は以下の2つ

動機付けを経たエンパワメント

直面化の後のエンパワメント

→どうしても入院が必要な時など、現実を突きつけ鼓舞することも必要。

今月の予定

<3月17日>理事会